



やまぎし み 山岸はる美 議員

問 病院診療体制の充実策は

答 総合診療科の運用で対応

議員 予約診療に移行した経緯と評価は。

町長 旧病院時の外来は午前、午後とも受け付け開始から診察まで最大で2時間ほどの待ち時間があるために受け付け後に一旦帰宅し、診察時間になっても院内にいないことや、通院バスを利用されている方の場合には診察が午後に延びることで帰りの交通手段の変更を余儀なくされる事例など多くの課題が見受けられた。そのことから院内の検討委員会で検討を行い、新たな電子カルテへの切り替えに併せて予約診療や外来基本票の導入を図った。新病院への移行後は、午前は8時の受け付け開始で9時からの診察、午後は1時からの受け付け開始で2時からの診察とし、予約診療

予約診療体制

は1時間の予約枠に約6人から10人程度で診察している。運用開始当初は電子カルテの操作が不慣れだったこともあり時間を要する場面もあったが、現在はスムーズな診察を行っている。

一方で救急搬送の受け入れ、インフルエンザ等の感染症患者の来院、入院患者の容態急変など優先的に措置しなければならぬ場合もあり、待ち時間が長くなる患者に対して説明を行うなど周知に努める。

予約診療導入後の経過状況は、旧病院時の診療体制と比較すると待ち時間は短縮されていることから、予約診療制を継続していく。さらには患者数の多い内科外来では総合診療科を効率よく運用し、丁寧な診療により医療サービスの提供に取り組んでいく。

1階待合スペース

議員 1階待合室の椅子と血圧測定器を余裕のあるスペースへ配置換えする考えは。

町長 新病院では内科、外科の待合スペースに4人掛けの長椅子を2列配置、その他にも椅子は配置しているが車いすやストレッチャーが通るスペースの確保のためにやや窮屈な状態になっている。



新病院内覧会での待合スペースの様子。

呼び出しスピーカー

混雑時に不便を掛けないうよう検討する。

議員 スムーズな診療のために1階内へのスピーカー設置の考えは。

町長 新病院の移行に伴い医師が直接呼び出しするシステムを導入した。スピーカーの設置については院内で問題点と解決策を整理、検討し対応していく。



やまぎし くにひろ 山崎邦廣 議員

問 DMOの現状と方向性は

答 協議会の成果を事業化へ

議員 事業の形成促進のために取り組んでいる現状を伺う。

町長 この事業は、28年9月に「くずまき観光地域づくり協議会」を設立、「観光」を切り口に地域GDPを拡大するとともに、若い世代にとって魅力的な働く場を創出していくことで、町の重要課題である人口減少に歯止めをかけることを目的としている。

「観光」「特産品」「まちなか」「若者・高校生」「移住交流」「スポーツツーリズム」の6つの検討部会は、熱意と情熱ある町民、関係団体で構成し、課題解決に向け目標を自主的に定め、具体化に向け取り組みを進めている。29年度はこれまで40回以上の講演会や検討部会を開催し参加者は延べ6

くずまき型DMOの現状



3月に開催されたDMOディベロップ・ミーティング。検討内容の事業化が期待されます。

00人を超えた取り組みに成長している。

参加者からは、町の最重要課題である人口減少の要因や町の現状など理解いただき、課題解決に必要なプロジェクトの実現化に向け、具体的な検討を進められている。

これまで町家旧遠藤邸活用イベント、JR仙台駅でのイベントなど行っており、参加者が自主的に集い、自発的に企

今後の取り組み

議員 事業の形成促進のため、今後の取り組みを伺う。

町長 これまで一定の成果を挙げる一方で課題もあり、さらに検討を重ね

事業化へつなげたい。また本事業の将来像が見えにくいとの声もあり、多くの方から参画、協力いただけるよう情報発信に努めていく。

今後、本事業の将来ビジョンに掲げる「特徴ある観光地への集客増と、特産品の6次化などによる販売額の増額に伴う地域GDPの拡大」及び「若手企業家や女性、高校生などが日常を過せるまちなかの創出」に向けた取り組みに重点を置くことにしている。

具体的に、これまでの成果をさらに発展させ、「本事業への町民や事業者のさらなる参画促進」「町内事業者の利益となる観光・特産品商品の事業化」「若者・女性が歩きまわり、事業者や起業希望者が出店したくなる、まちなか創出」などの事業を実施する予定だ。